「神様が一緒におられる」

マタイによる福音書 1:18−25

２０２３年１２月２４日
野村　友美 師

＜クリスマス礼拝＞

おはようございます、そしてクリスマスおめでとうございます。

「おめでとうございます」とは言うものの、私たちが生きているこの世界はとてもじゃなけど「おめでとう」という気持ちになれない状況で満ちているんじゃないでしょうか。

戦争や紛争、環境破壊がもたらす異常気象や災害、政治の混乱や理不尽な暴力のニュース。

本当に、考えれば考えるほど心が暗くなってしまいそうです。それでも、神様は私たちの不安も予想も超えて、驚くような恵みを与えてくださる。そのことを、まさに今日お祝いしているクリスマスの出来事が私たちに証明しています。

どうなっていくか、わからないのは変わらないけど、何があっても神様が一緒にいてくださる、神様が一人一人を愛しておられる、と私たちに知らせるために起こった出来事。

それが救い主イエス様の誕生です。

２千年とちょっと前、神様の独り子が人間の赤ちゃんとして、豪華な宮殿じゃなくて家畜の居場所で、ひっそりとお生まれになりました。

罪深い人間たちをやっつけて、懲らしめるためじゃなくて。

すべての人の罪の責任を身代わりに背負って死ぬために。そして、その死からよみがえって、神様と一緒に生きる新しい命をすべての人に差し出すために、救い主イエス様はお生まれになったんです。神様がなさることは本当に、私たちの予想を超えています。

先週の午後にこの礼拝堂で行った、子どもクリスマス会もそうでした。初めてのことで、何人の子どもたちが来てくれるか全く予想ができなくて、「誰も来なかったら、昔は子どもだった私たちでお祝いしよう」と直前まで割と本気で話していました。でも始まってみたら、びっくりするほどたくさんの子どもたちと保護者の方たちが来てくれたんです。

「いらないと思うけど、念のために」って追加で準備していた、お菓子のプレゼントの予備の分まで使いました。本当に、終わってから思わず涙が出るほど嬉しかったです。

何回もこうやって神様に驚かされて、なのにまたいつの間にか、神様に期待することを忘れてしまう私たちです。クリスマスをお祝いするこの朝、改めて神様がなさることに期待して、ご一緒にワクワクしていたいと思います。

＜マリアとヨセフに起こった出来事＞

イエス・キリストの誕生の次第はこうであった、とマタイによる福音書はある一人の人物のことを語り始めます。

昔、イスラエルのナザレという小さな田舎町に住んでいたユダヤ人の男性ヨセフ。彼は同じナザレ

に住むユダヤ人の女性、マリアと結婚の約束をしていました。ところが二人が結婚する前に、マリアのお腹の中に赤ちゃんがいることがわかりました。これがたとえば現代の日本での話だったら、「まあまあよくあることだし、とにかく子どもが生まれるのはめでたいよね」ぐらいで済むでしょう。ですが、この時代のイスラエルではそういう訳にはいきません。

しかもマリアのお腹の中の赤ちゃんは、ヨセフとの間の子どもじゃありませんでした。マリアはある日、天使から「あなたは聖霊によって、つまり神様の力で男の子を産むことになる」と聞かされます。生まれてくるその子は神様の子どもですよ、と言われてもちろんマリアはびっくりしました。そんなの無理ですよ！私はまだ結婚もしてません、と答えたマリアでしたが、「神様にできないことはありません」と言われて、天使の言葉を受け入れたんです。もちろんマリアだって不安も心配もいろいろあったでしょうけど、それでもとりあえず神様の子どものお母さんになる決心ができました。でも何も知らないマリアの婚約者、ヨセフにとってはまさに青天の霹靂です。

だって結婚の約束までしている相手のお腹に赤ちゃんがいて、しかも明らかに自分との子どもじゃないんですから。この子は神様の子どもなのよ、天使からそう言われたの、とマリアがヨセフに説明したのかどうかは、聖書は何も伝えていません。説明されたとしても、すぐに信じられるような話じゃありませんよね。

きっとマリアは誰か他の人を好きになって、その相手との子どもができたんだ。そう考えたヨセフは、それでも「マリアに裏切られた！」なんて大騒ぎしないで、そっとマリアとの婚約を解消しようと決心します。

愛する婚約者に裏切られた、と思うだけでも悔しかったでしょうし、こんな恥ずかしいことをあんまり周りに知られたくない、とも思ったのかもしれません。でもそれだけじゃありませんでした。

この時代のイスラエルでは、婚約している二人は法律的に「ほぼ夫婦」という扱いでした。

そして女性の方が、圧倒的に男性よりも立場が弱かったんです。もし女性が夫や婚約者を裏切って、他の男性と浮気をしたら、彼女は石で打ち殺さなければならない、という掟が旧約聖書の申命記に書かれています。

ですから、婚約しているのに他の相手との子どもができたなんて知られたら、マリアは家族や親戚や周りの人たちから「掟を破った罪人め！」と責められて石をぶつけられて殺されてしまうかもしれませんでした。

悔しいし、悲しいし、腹がたつし、このまま黙ってマリアと結婚なんかとてもできない。

でも、愛するマリアが罪人扱いされて殺されてしまうのもイヤだ。そんな苦しい気持ちで、ヨセフは悩んで葛藤したんでしょう。

そっと婚約を解消しておけば、後からマリアの妊娠が他の人たちに知られても「いや、もう婚約してませんでしたから」と言えます。

そうしたら、マリアが律法違反で殺されてしまう危険はなくなるだろうと、そこまでヨセフは配慮

したようです。

　ですがその夜、ヨセフの夢の中に天使が現れてこう言いました。「ヨセフ、怖がらないでマリアと結婚しなさい。マリアのお腹の中の赤ちゃんは神様の子どもです。男の子が生まれるから、その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからです。」

イエスという名前は、イスラエルの言葉のヘブライ語で「神様は救う」という意味です。マリアのお腹の中にいるのは神様の子どもで、人々を罪から救うために生まれるんですよ、と天使はヨハネに予告したんです。

この天使の予告の後に、マタイの福音書はこんな説明を入れています。

「このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

　『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』」

　イエス様が生まれるざっくり７００～８００年ぐらい前、神様の言葉を聞いて伝える預言者の一人、イザヤという人が救い主の誕生を予告していました。「インマヌエル」というのは、ヘブライ語で「神様が私たちと一緒に居る」という意味です。神様が一緒に居る、というあの約束を実現するために、マリアから神様の子どもが生まれてくる。神様の子どもは、すべての人が神様と一緒に居られるようになるために、すべての人を罪から救うために生まれてくる。これはそういう出来事なんですよ、と聖書の言葉は私たちに伝えているんです。

聖書が「罪」と呼んでいるもの。

それは、私たち人間が神様の思いを無視して、神様から離れて自分勝手に生きようとすることです。と言うと、何だかすごく窮屈で息苦しく聞こえますね。もっと具体的に言うと、この世界を創って私たち一人一人に命を与えた神様の愛を私たちが認めない、大事にできない、そのことを聖書は「罪」と呼んでいます。

自分のことも他の人たちみんなのことも、この世界の全部を神様がお創りになって、大切に思っておられるんだと、ちゃんと認めて大切に扱えない。

そんな罪に振り回されて、私たちは自分や他の誰かや何かを好き勝手に扱って傷つけたり壊したりしてしまいます。

神様の愛よりも、自分好みの正義とか基準の方が大事だし、こんな私やあんなあの人を神様が愛してるなんて信じられない。

そんな風に、なかなか素直に神様の愛を受け取れないのが私たち人間です。

私たちにはできないから、イエス様が私たちの世界にお生まれになったんです。

宇宙も創られた神様が、この地球の上で私たちと一緒に泣いたり笑ったり食べたり話したりできる小さな人間の一人になって、私たち人間の目に見える姿で、耳に聞こえる言葉で、わかりやすくはっきり神様の愛を伝えにやって来られたんです。

しかも、私たちの罪が引き起こす苦しさや悲しさ、悔しさや寂しさをぜんぶ味わって、私たちの罪の責任を身代わりに背負って、イエス様は十字架で死なれました。
その上で、「神様はあなたを愛している、安心して神様と一緒に生きなさい」と今も私たち一人一人に呼びかけておられるんです。
「聖霊によって、神様の力で、マリアは救い主になる男の子を生む。
あなたはその子に「イエス」と名前をつけて、マリアと一緒にその子を育てなさい。」
そう夢の中で天使から言われたとおりに、ヨセフはそのままマリアと結婚しました。確かに「大丈夫、マリアはあなたを裏切ってなんかいませんよ。生まれてくるのは神様の子どもなんですよ」って教えてもらったんですから、もう悩む必要はありません。でも、これから神様の子どもを生もうとしている人と結婚して、一緒にその子を育てていこう、と決めるのもなかなか勇気がいることなんじゃないでしょうか。
自分の子どもを育てるのだって大変そうなのに、救い主になる予定の神様の子どもを育てるなんて、不安にならない人がいるでしょうか。
いくらヨセフがマリアのことを愛していたとしても、これはこれでけっこう高いハードルだっただろうと思います。それでも、ヨセフはマリアと一緒にイエス様を育てる決心をしました。
　神様の愛を伝えるために、これから神様の子どもが生まれてくる。預言者イザヤが約束したとおり「インマヌエル」、神様は私たちと一緒におられる。この先に何があっても、これからどんなことに出会っても、神様が私たちと一緒におられて、私たちを愛していてくださる。そう信じて安心して、ヨセフは新しい人生に踏み出したんです。
　インマヌエル、神様が私たちと一緒におられる。この約束の証拠として、私たち人間の真っただ中にお生まれになったイエス様は今日この時も、すべての人に向かって呼びかけておられます。
神様はあなたを愛しておられる、神様に信頼して安心しなさい、と私たち一人一人を、神様と一緒に生きる新しい人生に招いておられます。
自分自身も他のどんな人も「神様が愛しておられる」大切な人だと認めて一緒に生きられる本当の平和に、私たちはみんなイエス様から招かれているんです。
　このクリスマス礼拝の朝、私たちはイエス様の招きに応えて、新しい一歩をここから踏み出そうではありませんか。この先に何があっても、これからどんなことに出会っても、神様が私たちと一緒にいてくださる、神様は私たちを愛しておられる。「インマヌエル」の安心を抱えて、自分も他の人たちも大切にしながら何が待っているかわからない人生に神様の出来事を期待していきましょう。
お祈りいたします。